

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

聖路加国際病院プレストセンターでの研修を終えて

広島大学病院乳腺外科

木村 優里

この度、日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにより、令和4年8月1日から8月28日までの4週間、聖路加国際病院プレストセンターで研修させて頂きました。このような貴重な機会を頂きました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長に厚く御礼申し上げます。また、コロナ第7波で医療現場やスタッフもひっ迫している最中にも関わらず、快く研修を受諾頂きました山内英子プレストセンター長、吉田敦医長を始め、スタッフ、レジデントの先生方、また快く研修に送り出して下さった当科岡田守人教授ならびに医局員の先生方にも心より感謝申し上げます。

私は広島出身で、広島大学卒業後は広島大学原医研腫瘍外科に入局し、以降も広島という医療圏以外を知る機会がありませんでした。今回の研修のお話を知り、日本でも有数の乳癌手術症例数を誇り、またHBOC診療、患者支援などにも精力的に力を注いでいるhigh volume centerである聖路加国際病院にて、日常診療だけでなく施設体制やタスクシフトも含め、ぜひ学びたいと思い応募致しました。

研修期間中はプレストセンター（乳腺外科）を中心として、手術や外来、病棟業務、回診やカンファレンスへの参加を主に行いましたが、私の希望と聖路加国際病院の先生方のご厚意で、腫瘍内科、HBOC診療体制、患者支援、各科との連携体制など、幅広く研修させて頂き、非常に充実した研修生活を過ごすことができました。

まず、聖路加国際病院プレストセンターでは診療においてチーム制が導入されており、回診・手術・外来業務などもチームで行うため、非常に密にスピーディーに患者情報の連携が取れている点に驚きました。各チームスタッフの責任者の先生が誰よりも率先して診療に当たられており、チーム内・外に関わらずレジデントやフェローにも細やかな気配りをして下さり、相談しやすい環境が整っていてチーム医療がうまく機能し、より良い医療の提供にもつながっていることを体感しました。

また腫瘍内科、放射線科、形成外科、遺伝診療センター、女性総合診療部、患者支援サポートなど他科との距離が近く、質の高い定期カンファレンスを通じて円滑な診療につながっていることも印象的でした。特に、HBOC診療においては術前のBRCA遺伝学的検査、RRM・RRSOも加味した術式検討など、手術予定を組むのも本当に大変ですが、密な連携と各科の対応力によりRRSOと乳癌手術、乳房再建を全て同時に行うなど、手術回数の軽減という患者さんにとっての大きなメリットにつながる素晴らしい体制が確立されていました。

手術手技に関しては、特に乳房部分切除における欠損部補填のための乳腺弁デザインの工夫は非常に感銘を受けました。他にもセンチネルリンパ節生検の際の、ペアンで1枚ずつ膜を剥離する必要最小限の侵襲で行う丁寧で細やかな手術操作など、大変参考になりました。

また、カンファレンスや勉強会もevidenceに基づいた活発な議論がなされており、そのレベルと質の高さはもちろんのこと、患者さんの希望や思い、環境なども加味して本当に必要な治療は何かということを細やかにdiscussionしている点など、驚くばかりでした。特に、Journal clubという、一つのテーマや論文を選択し、その最新の知見について深く読み解く勉強会は全て英語で行われており、教育的なdiscussionと造詣の深さは、診療科全体の知識と意欲の向上にもつながる大変素晴らしい時間で、感動すら覚えました。

病院内の研修でも非常に多くのことを学ぶことができましたが、山内英子先生を始め多くの上級医・指導医の先生方、レジデントやフェロー、同年代の先生方とお話する機会も、自身にとっての素晴らしい経験と糧となりました。どの先生も非常に勉強熱心で熱意があり、臨床だけでなく意欲的に研究活動や留学など幅広くご活躍されている傍ら、患者さんにも私にも、いつでも優しく笑顔で接して下さるホスピタリティにあふれた姿勢に、頭が下がる思いでいっぱいでした。自分の考え方や視野の狭さを改めて反省すると共に、広島での経験しかない私にとって、新たな環境で同世代の先生方と関わったことは非常に刺激的で、一つの大きな転機となったと思います。このような素敵な出会いが得られたことに心から感謝しております。

本当に日々多くのことを学び、感じる事ができた、非常に充実した貴重な研修生活となりましたし、改めて乳腺外科の魅力を再認識することができました。提供できる医療の内容において、環境や地域格差を感じることもありましたが、そこを少しずつ埋めていくことは今後の大きな課題となると思います。今回得られた知見や経験を、明日からの診療にもつなげていけるよう精進して参ります。また、このような素晴らしい国内外科研修の機会を頂けたことに改めて感謝すると同時に、自身の後輩や同じような立場の若手外科医にもこの研修プログラムの応募をぜひ積極的に勧めたいと強く思いました。

最後になりましたが、研修プログラムを主催して頂いている日本臨床外科学会、研修を受け入れて頂きました聖路加国際病院の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



ブレストセンター長の山内英子先生と、そのチームメンバーとの1枚。